心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭の養成・育成プログラム

文部科学省

背景

- 不登校児童生徒をはじめ、様々な困難を抱える児童生徒に対して、教師や学校医、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携しながらチームで対応する必要がある中、日常的に子供に関わる養護教諭の重要性は年々増大。
- 児童生徒の心身の健康課題が多様化・複雑化する中で、養護教諭は、主として保健室において、教諭とは異なる専門性に基づき、健康面の指導だけでなく生徒指導面でも大きな役割を担っており、状況によっては、カウンセリングを行ったり福祉につなげたりすることも想定されるところ、養護教諭の更なる資質能力の向上に取り組むことが求められている。
- このような状況を踏まえ、養護教諭の養成課程を有する大学のうち、心理系学部又は福祉系学部を有する大学等において、**養護教諭に近年求められる資質能力を身につけるためのカリキュラム**や大学や教育委員会で実施する**現職養護教諭の資質・能力の向上を目的とした研修プログラムを開発**。

●心理・福祉分野の資質能力一覧

- 多様化・複雑化する心身の健康課題に対応するために養護教諭の専門性を基盤として、**心理・福祉分野に関して養成段階・現職を問わず身に付けることが望ましい資質能力**を①心理・福祉共通分野、②心理分野、③福祉分野の3分野で整理。

①心理・福祉共有分野
　児童生徒等の精神保健に関する理解と支援、健康相談及び心理社会的アセスメントと連携
②心理分野
　心理社会的・認知的発達及び心身相関に基づく見立てと配慮、健康相談及び保健指導における心理的支援の基礎と関係調整
③福祉分野
　権利擁護及び福祉的視点に基づくアセスメントと支援、福祉制度や社会資源の活用及び多職種連携のための設計



●養成大学向け養成プログラム

- 資質能力一覧から養成課程で学修する内容を抜粋し、心理福祉共通・心理・福祉の3科目相当の養成プログラムを開発。
- 各大学のカリキュラム編成やリソースの状況に応じて、**心理・福祉分野の教育内容を充実させるための検討資料**となるよう、授業単位でのプログラム例を作成。

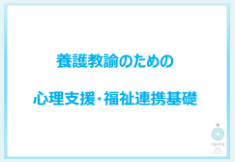
活用の例

①科目の新設・再編
　本プログラムを用いて、新たな科目を設置、
　又は既存科目の見直しの際に参考として活用。
②既存科目への組み入れ
　既存授業の中に、本プログラムの特定のトピックを数コマ分組み入れる。

●養護教諭向け研修プログラム

- 養護教諭に近年求められる「気付き（アセスメント）」「関わり（支援）」「つなぎ（連携）」の実践的な資質能力を講義＋演習を通じて修得することを目的とし、研修プログラムを開発。
- 都道府県教育委員会等が、**養護教諭向けの研修で活用**できるよう、心理福祉共通・心理・福祉の3つの研修プログラムの講義スライドと解説ノートを作成。

本教材の有用性





・実践の根拠（法令等）の提示
・経験年数に応じた活用可能性
　経験の浅い養護教諭にとっては、支援・連携の進め方を理解する上で有意義。
　ベテラン養護教諭にとっては、経験知を整理・体系化し、実践の強みにする機会になる。
・外部機関との連携フローや関わり方が可視化

掲載URL（文部科学省HP）：https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1384931.htm